

島根県知事の溝口でございます。
大会長として、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様、ようこそ島根にお出で下さいました。心より歓迎申し上げます。
本日、全国図書館大会をここ島根県松江市で開催できますことは、私どもにとりまして大変有難く、また光栄なことでございます。

私は5年前に知事になりまして間もない頃、学校の司書さんや先生方、教育委員会、そして県議会の方々から学校図書館の重要性について色々お話をお聞かせいただき、私自身も学校図書館の現場を視察したりしまして、「子ども読書県しまね」の実現を目指そうと考えました。

そして、多くの関係の方々のサポートを得て、平成21年度から、子どもの読書活動の推進事業を進めてきております。

その中で、学校司書や司書教諭の増員、図書の充実などを県全体で進めてきておりますが、関係の皆さんのご努力により学校図書館の活用がかなり進んできております。

さて今年は、日本最古の歴史書「古事記」が出来て1300年になります。古事記の冒頭は神話の世界であります。その神話の3分の1は島根・出雲を舞台にしております。そこで県は、縁結びで有名な出雲大社のそばで7月21日から11月11日までの間、「神話の博覧会」を行っております。

スサノオノミコトが天上界で乱暴するので、アマテラスオオミカミに追放されて出雲の地に来られてオロチ退治をしたり、スサノオの子孫のオオクニヌシノミコトが地上界を豊かな国にしますが、その地上界、出雲の地であるアシハラノナカツクニを天上界にお譲りをする国譲りの神話などがあります。

そして、その代わりに天上界に届くような大きな住居を作ってほしいということで出雲大社ができ、出雲大社は来年5月に60年に一度の大遷宮が執り行われます。

大人も子どもも、こうした神話は何となくは知っておりますが、あまり良くは知らないのでありまして、そこで今年の夏休み前には、郷里の学習という意味を含めまして、県下全ての学校図書館や公立図書館が古事記や神話、郷土の歴史などの図書をそろえることが出来るよう予算の配布なども行ったりしました。

これは一例であります。こうしたようなことを含め、今日の大会で、全国各地の図書館関係者の方々が一堂に会して、日本各地における図書館活動について色々な角度から議論をされることは、大変意義あることだと思います。

今回の大会が皆様方にとりまして有意義で思い出に残る大会となるよう、ご祈念申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。